

04.01.28 まちづくりと政策イノベーション  
修士論文 最終発表 練習

## 人口還流現象の世代間比較分析

- 淡路島進学高校卒業者にみる還流の実態と可能性 -

慶應義塾大学 政策メディア研究科 GIプログラム  
修士課程2年 片桐 暁史 #80231523

## 発表の流れ

問題意識・研究目的・研究の流れ

兵庫県淡路地域の概況

同窓会名簿分析によるUターン動向の概況把握

アンケート調査

結論

# 研究の背景・問題意識

## 研究の背景

中山間地域・・・国土面積の7割  
農業生産の4割  
若年層流出による過疎・高齢化



人口還流の正確な実態把握は  
わが国の地方圏の将来に重要課題

## これまでの指摘

若者の帰還意志に対する  
地域条件の不整備



若年層の出身地域への帰還の減少

## 問題意識

果たして、若年層の出身地域への帰還減少は本当か？

それは 他出する者自体が減少したことによる帰還者の減少なのか  
他出する者は増加している中での帰還者の減少なのか



構造自体の把握には、世代間で比較分析することが必要。

# 研究の目的・位置づけ

## 研究の目的

人口還流現象の実態について  
兵庫県淡路島を事例に  
世代間で比較分析を行う  
ことにより明らかにする。

## 先行研究

国調・住基では居住経歴が不明  
Uターン者の正確な実数把握が  
進んでいないのが現状



同窓会名簿分析・アンケート調査  
により市町村単位での帰還先特定

## 兵庫県淡路島の意義

中山間地域の一典型  
世代間比較のデータが入手可能  
人口移動を左右する様々な要素  
大鳴門海峡大橋開通（1985）  
阪神淡路大震災（1995）  
明石海峡大橋開通（1998） など



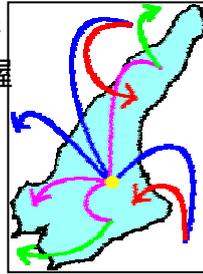
# 研究の手法

## (0) 淡路地域の概況整理

国勢調査、住民基本台帳、事業所・企業統計  
現地巡検、自治体ヒアリング、既往関連研究サーベイ

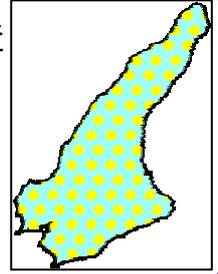
### (1) 同窓会名簿分析 Uターン概況把握

コーホート間比較  
男女間比較  
国勢調査との比較



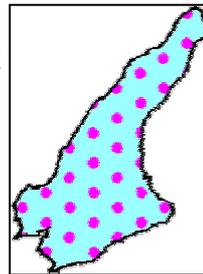
### (2) アンケート調査

属性分析  
年齢・性別・家族  
要因分析  
時期・誘引・阻害  
今後の意向など



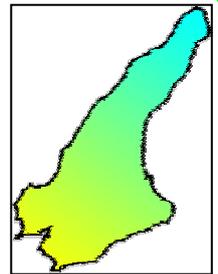
### (3) ヒアリング調査

Uターン非実行者  
Uターン実行者  
島外再移住者  
再Uターン実行者



### (4) 結論

淡路地域の概況  
人口還流の実態  
人口還流の将来像  
地方圏の将来像



## 問題意識・研究目的・研究の流れ

研究目的

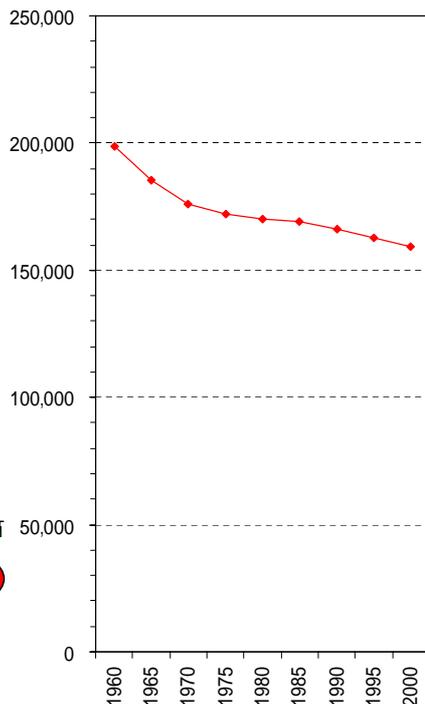
淡路の概況

同窓会名簿

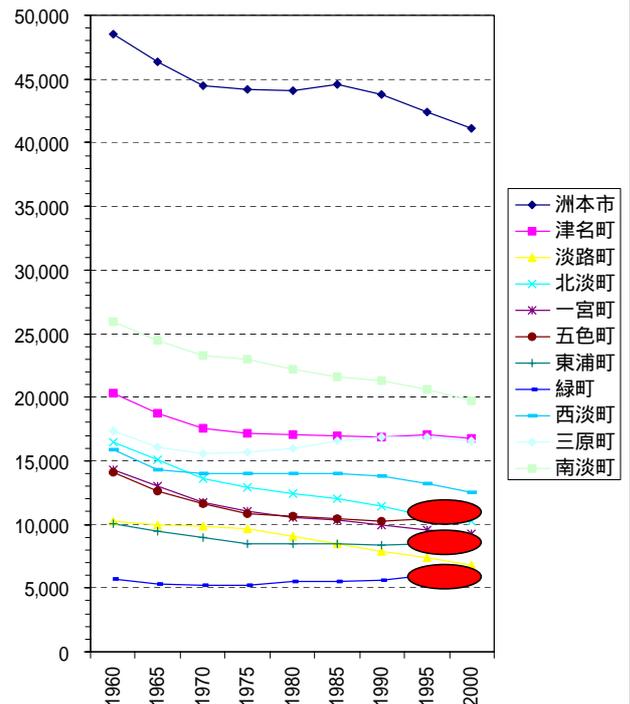
アンケート

結論

# 人口の推移



淡路地域 全体の人口推移



淡路地域 市町別の人口推移

## 兵庫県淡路地域の概況

研究目的

淡路の概況

同窓会名簿

アンケート

結論

# 自然増減と社会増減

自然増減率と社会増減率の推移  
(1990~2000)

左右に狭く 上下に広い

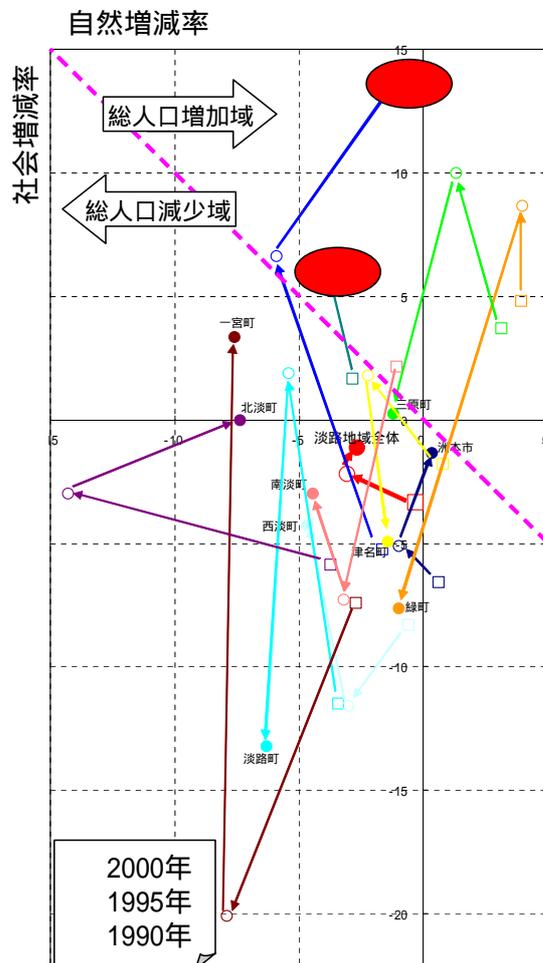
人口増減の多くの部分が  
社会増減によって担われている

総人口増加域

近年では、五色町と東浦町のみ

< 五色町 >  
宅地造成・企業誘致・医療福祉

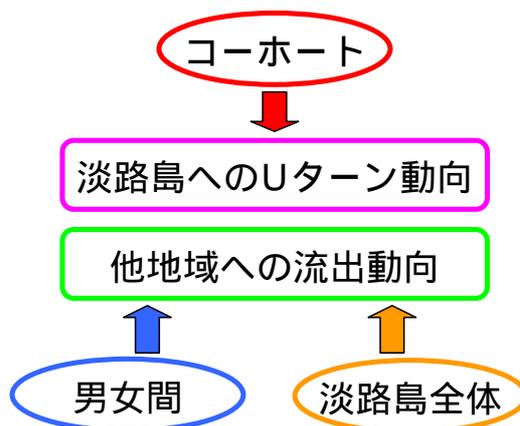
< 東浦町 >  
神戸圏に対するベッドタウン化



# 同窓会名簿分析の手法

## 整理・分析方法

兵庫県立洲本高校の  
同窓会名簿を利用  
1964~2002年の計8冊  
8つのコーホートを選定  
高校在学時、大学在学時、  
20代後半、~、50代後半  
の居住地を整理

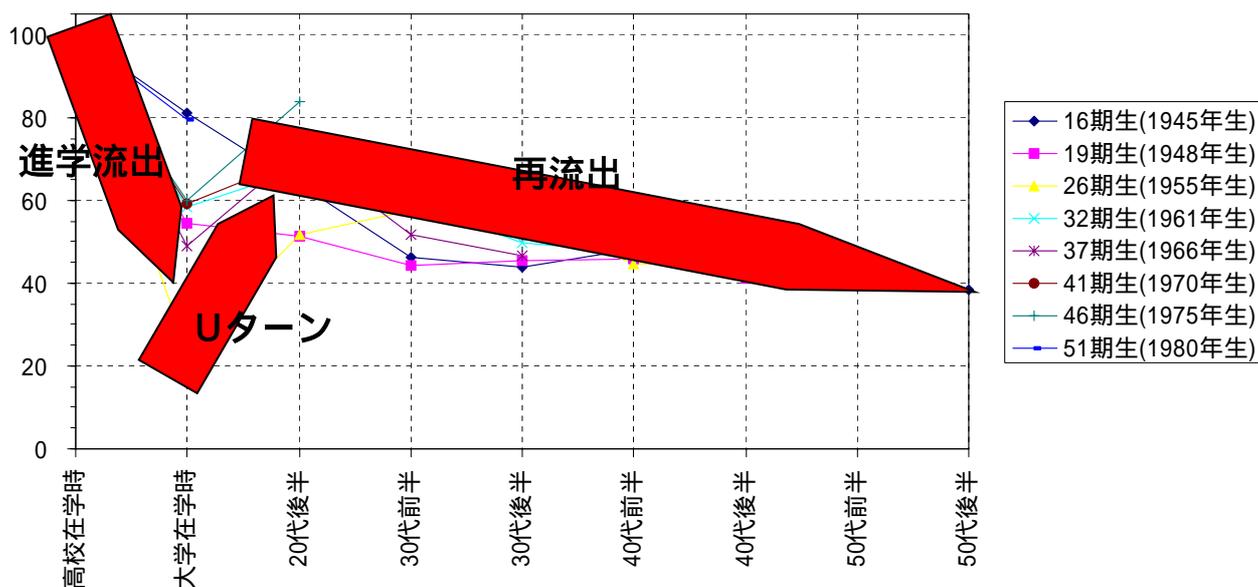


発行年	昭和39年	昭和46年	昭和52年	昭和57年	昭和62年	平成4年	平成9年	平成14年
コーホート	1964年	1971年	1977年	1982年	1987年	1992年	1997年	2002年
16期生(1945年生まれ)	18歳	25歳	31歳	36歳	41歳	46歳	51歳	56歳
19期生(1948年生まれ)	15歳	22歳	28歳	33歳	38歳	43歳	48歳	53歳
26期生(1955年生まれ)		15歳	21歳	26歳	31歳	36歳	41歳	46歳
32期生(1961年生まれ)			15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳
37期生(1966年生まれ)				15歳	20歳	25歳	30歳	35歳
41期生(1970年生まれ)					16歳	21歳	26歳	31歳
46期生(1975年生まれ)						16歳	21歳	26歳
51期生(1980年生まれ)							16歳	21歳

対象コーホートの同窓会名簿発行年における年齢

# Uターン動向 コーホート間による比較

洲本高校卒業生 コーホート間による比較（総数）



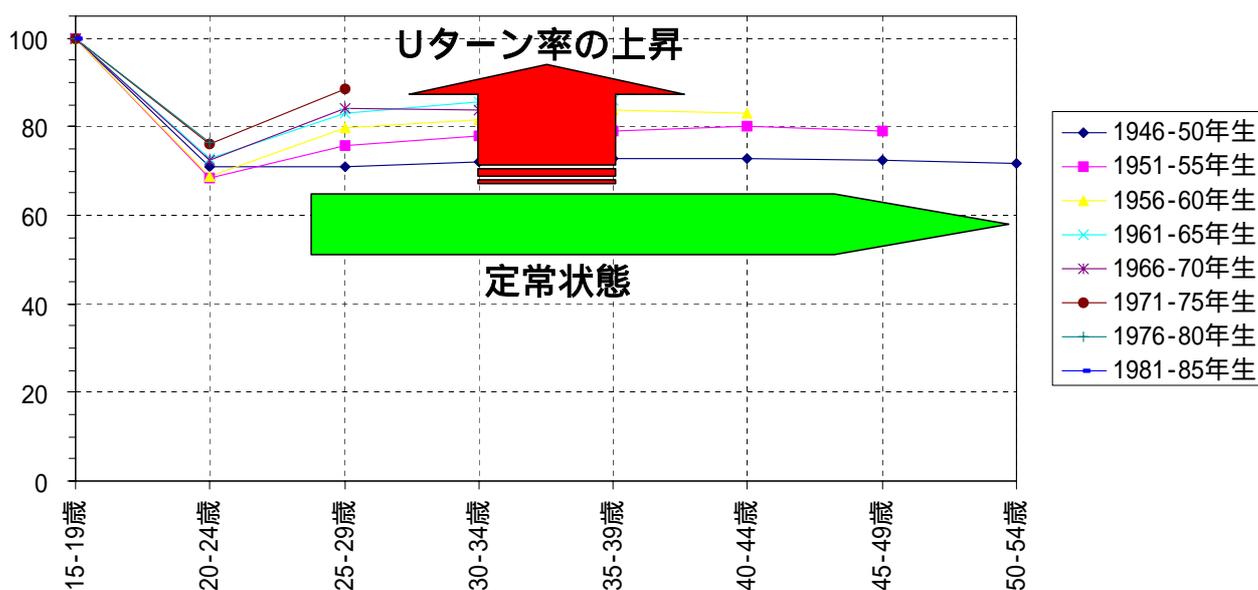
進学流出 Uターン 再流出  
Uターン傾向の強まりと再流出傾向の強まり 将来的には在住者減少

## 同窓会名簿分析によるUターン動向の概況把握

研究目的 淡路の概況 同窓会名簿 アンケート 結論

# Uターン動向 淡路地域全体との比較

国勢調査による淡路地域全体（総数）

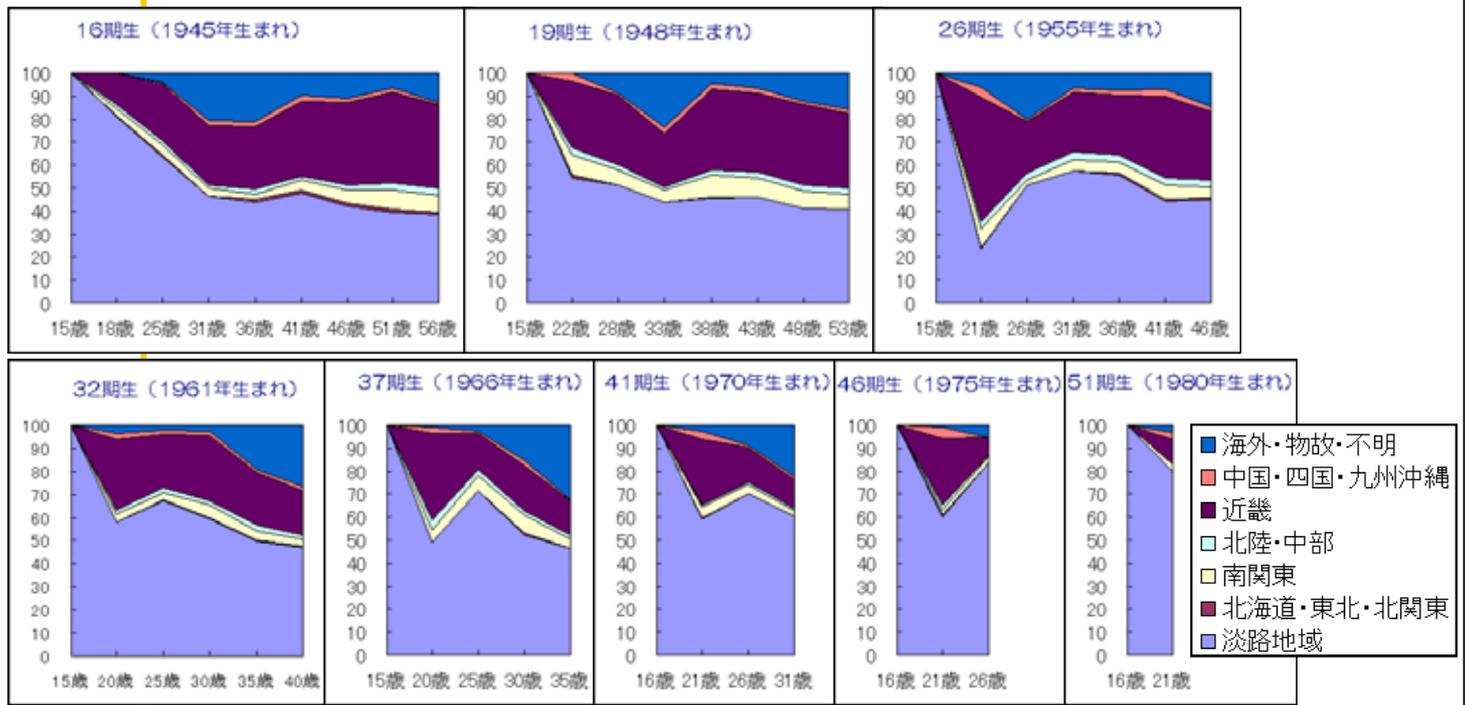


Uターン率の上昇（特に女性） 進学高校卒業生との格差拡大傾向  
早い段階での定常状態 進学高校卒業生のUターン後の職のミスマッチ

## 同窓会名簿分析によるUターン動向の概況把握

研究目的 淡路の概況 同窓会名簿 アンケート 結論

# 他地域への流出動向



流出の大部分が近畿圏  
 きょうだい数減少、明石海峡大橋開通などから、近畿圏一極集中傾向

## 同窓会名簿分析によるUターン動向の概況把握

研究目的 淡路の概況 同窓会名簿 アンケート 結論

# アンケート調査 目的と対象

### アンケート調査の目的

同窓会名簿整理やヒアリングを通じた仮説の検証  
 ↓  
 進学高校卒業者のUターン後の職のミスマッチ  
 ↓  
 Uターン移動に対する家族的要因の強まり など  
 人口還流の構造・発生メカニズムの解明

### アンケート調査の対象・比較法



## アンケート調査

研究目的 淡路の概況 同窓会名簿 アンケート 結論

# アンケート調査 質問項目・回収状況

## 質問項目

- ・基本属性（年齢・性別・きょうだい・学歴・職業・配偶者・家族構成）
  - ・居住地移動経歴（高校在学時～現在）
  - ・Uターン検討・実行の時期と誘引要因・阻害要因  
 [ 職業 ][ 家族家産 ][ 社会関係 ][ 地域風土 ][ 淡路地域 ] 的理由
  - ・再流出検討・実行の時期と誘引要因・阻害要因
  - ・将来の意向（居住地移動・同居者）
- その他

## 発送・回収状況

2003年11月に実施

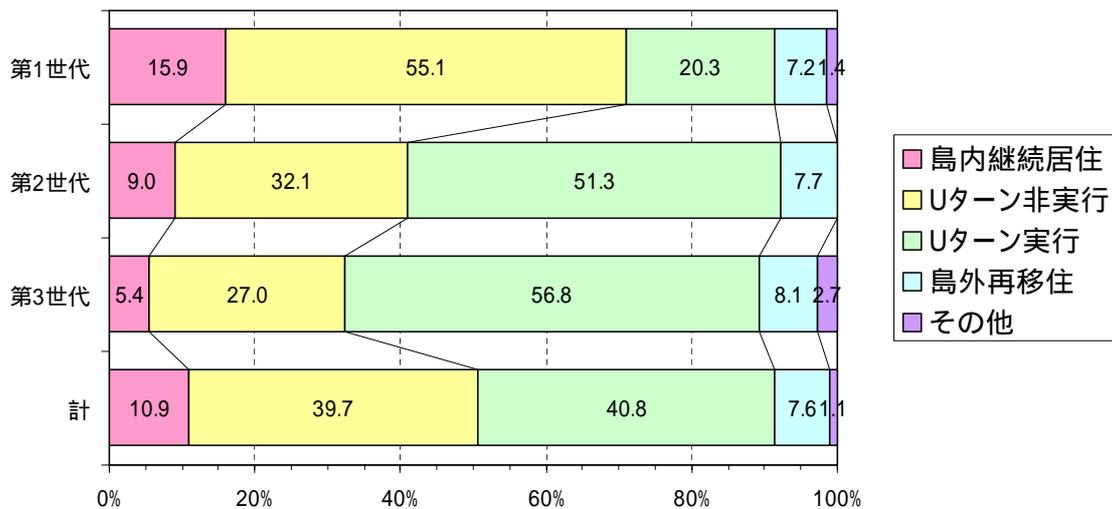
3つの世代に対し、  
同窓会名簿表記先へ郵送

発送数 804通  
回収数 183通  
回収率 22.8%

		淡路島内	淡路島外	計
第1世代	発送数	107	136	243
	回収数 (回収率)	25 (23.4%)	45 (33.1%)	70 (28.8%)
第2世代	発送数	159	138	297
	回収数 (回収率)	47 (29.6%)	29 (21.0%)	76 (25.6%)
第3世代	発送数	215	49	264
	回収数 (回収率)	24 (11.2%)	13 (26.5%)	37 (14.0%)
計	発送数	481	323	804
	回収数 (回収率)	96 (20.0%)	87 (26.9%)	183 (22.8%)

# Uターン者の量的把握

## 回答者の居住地移動パターン

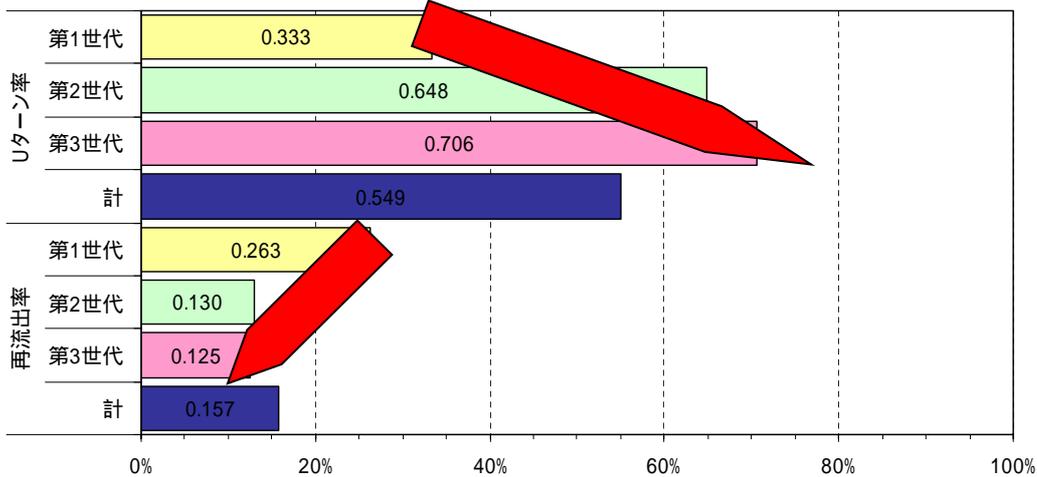


## Uターン経験者

	島内継続居住		Uターン非実行		Uターン実行		島外再移住		その他		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
第1世代	11	15.9%	38	55.1%	14	20.3%	5	7.2%	1	1.4%	69	100%
第2世代	7	9.0%	25	32.1%	40	51.3%	6	7.7%	0	0.0%	78	100%
第3世代	2	5.4%	10	27.0%	21	56.8%	3	8.1%	1	2.7%	37	100%
計	20	10.9%	73	39.7%	75	40.8%	14	7.6%	2	1.1%	184	100%

# Uターン率・再流出率

## Uターン率・再流出率（世代別）



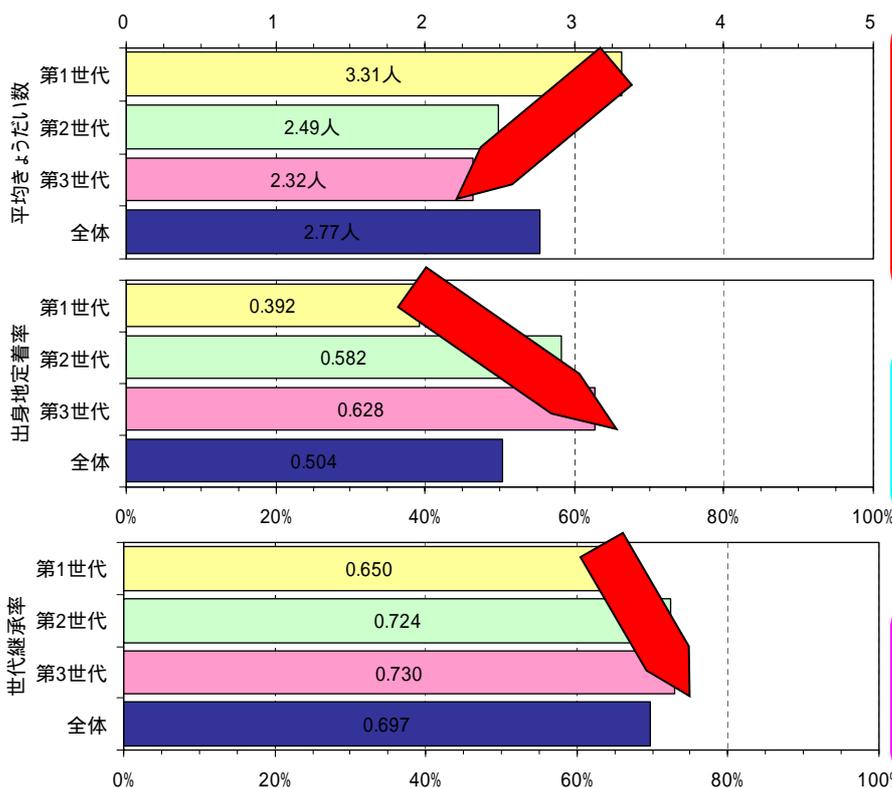
Uターン率 ↑

いったん淡路島外に他出した者のうち、島内にUターンした者の割合

再流出率 ↓

いったん淡路島内にUターンした者のうち、再び島外へ移住した者の割合

# 出身地定着率・世代継承率



きょうだい数が減少する中において、  
世代継承率をも上昇させる規模のUターン率の上昇

同時に、若い世代の再流出に対する潜在性

出身地定着率 ↑

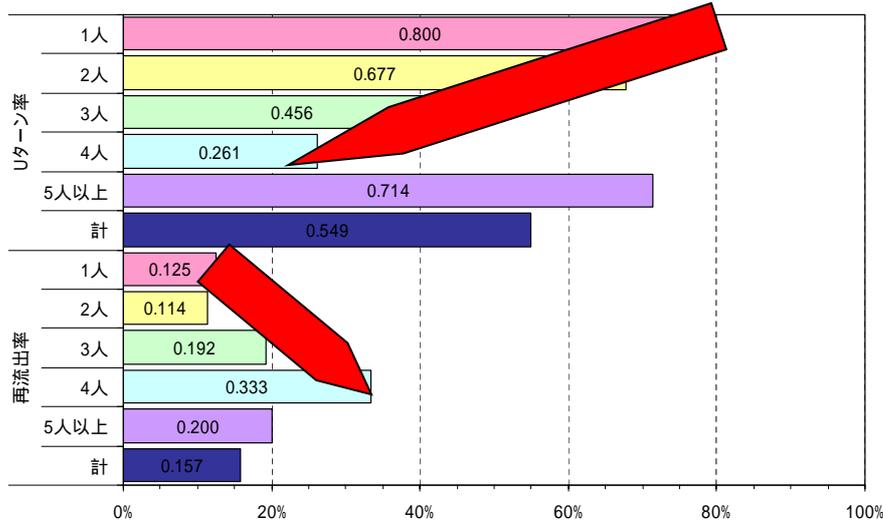
きょうだい全体に占める淡路地域に居住している者の割合

世代継承率 ↑

親1人に対して淡路地域に最終的に居住している子供の人数の割合

# Uターン性向と属性 きょうだい数

Uターン率・再流出率（きょうだい数別）

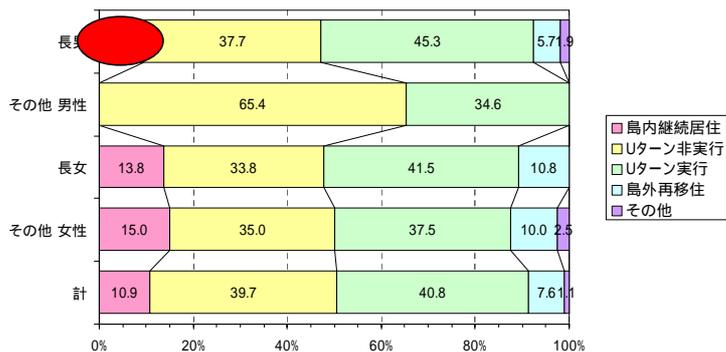


Uターン率・・・きょうだい数が少ないほど高い  
再流出率・・・きょうだい数が多いほど高い

「Uターンおよび再流出」と「きょうだい数」との極めて強い相関  
若い世代のUターン率上昇には、近年のきょうだい数減少が大きく起因

# Uターン性向と属性 きょうだい続柄

居住地移動パターン（きょうだい続柄別）



「長女」と「その他 女性」には大きな差異はなし

「長男」と「その他 男性」に大きな違い

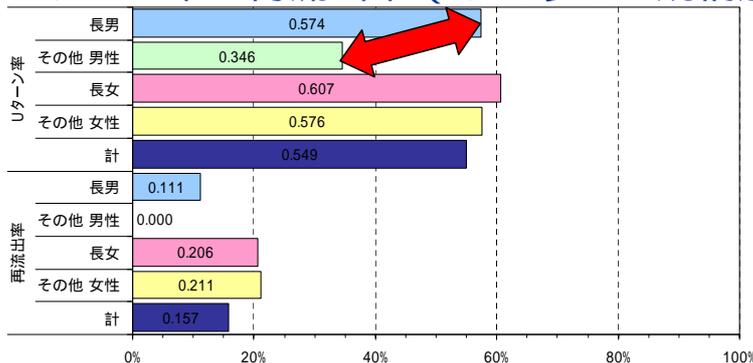
## 長男

高校卒業後、そもそも島外へ出ない者も多い。

いったん島外へ他出した「長男」も「その他 男性」に比べて圧倒的にUターン率が高い。

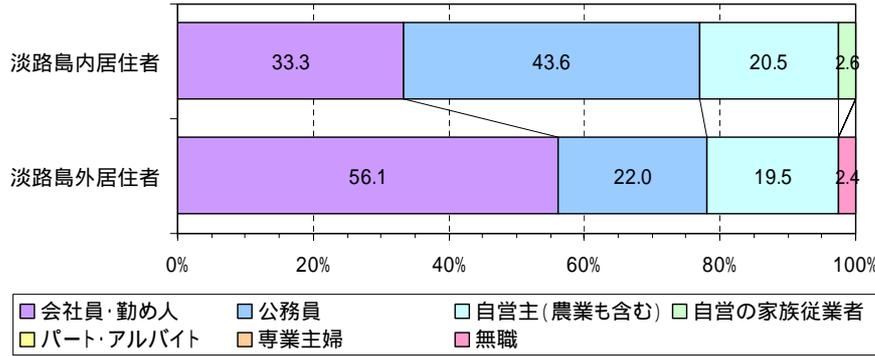
「長男」であるかどうかという家族的要因が、居住地移動を強く規定

Uターン率・再流出率（きょうだい続柄別）



# Uターン性向と属性 職業（男性）

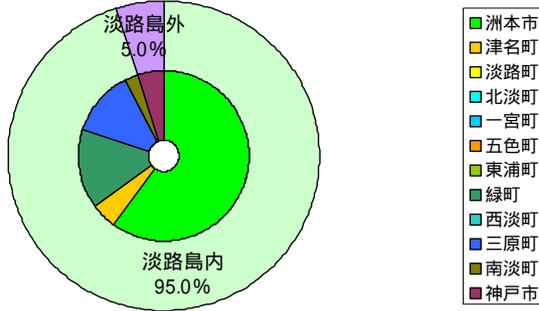
## 居住地別雇用形態（男性）



淡路島内居住者の大部分が「公務員」「自営業者」

淡路島内居住者の大部分が淡路島内に勤務

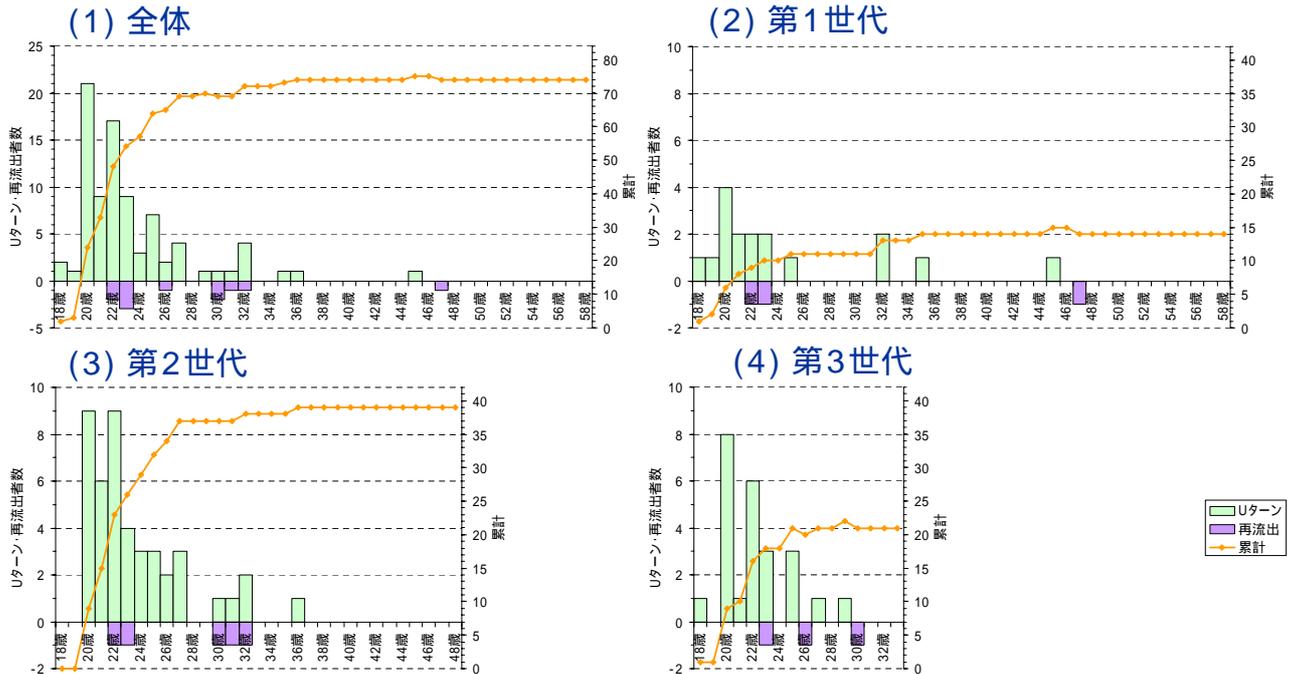
## 淡路島内居住者の勤務地（男性）



進学高校卒業者にとって淡路地域における就業の選択幅が極めて限られている。  
現状では、それほど多くが淡路島外（神戸など）に通勤はしていない。  
阪神圏との近距離性を高めた現在、通勤視野を島外へ広げることによる選択幅拡大を示唆。

# Uターンの発生時期（年齢）

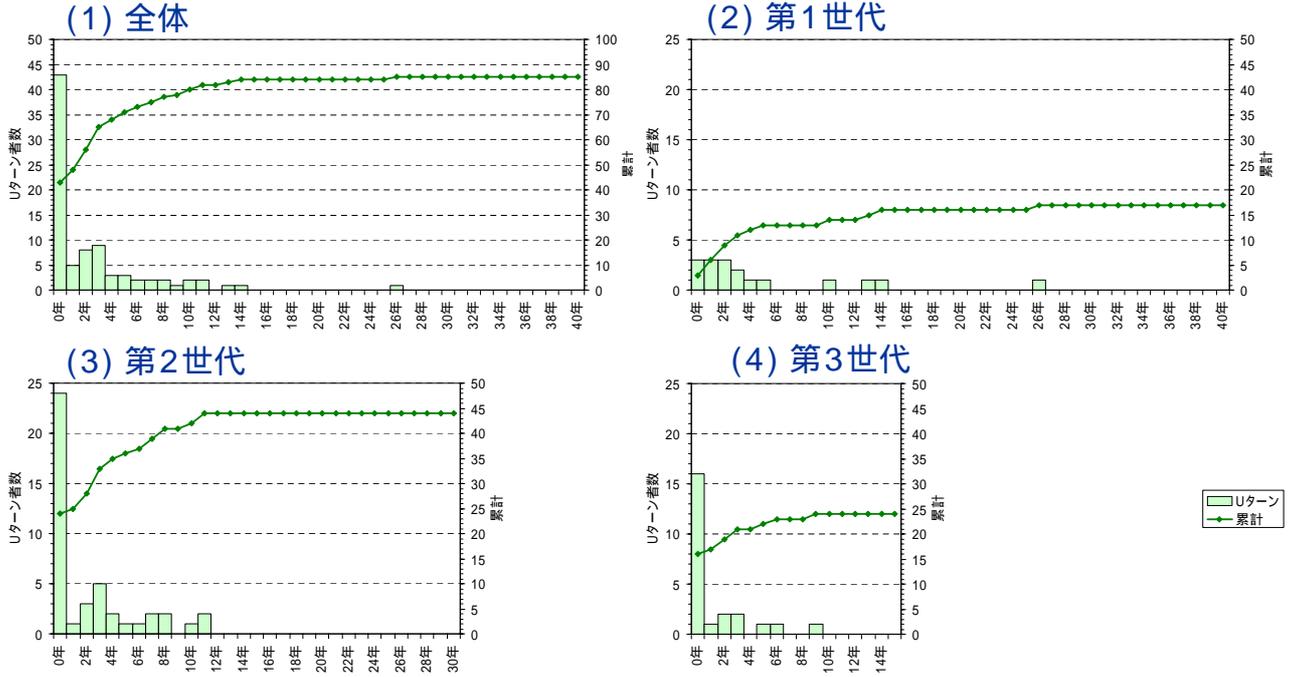
## Uターンと再流出の発生時期



各世代ともに、20歳と22歳に大きな山 就職時期との関係  
概ね30歳前後の比較的早い段階でUターンを終えている

# Uターンの発生時期（就職経年）

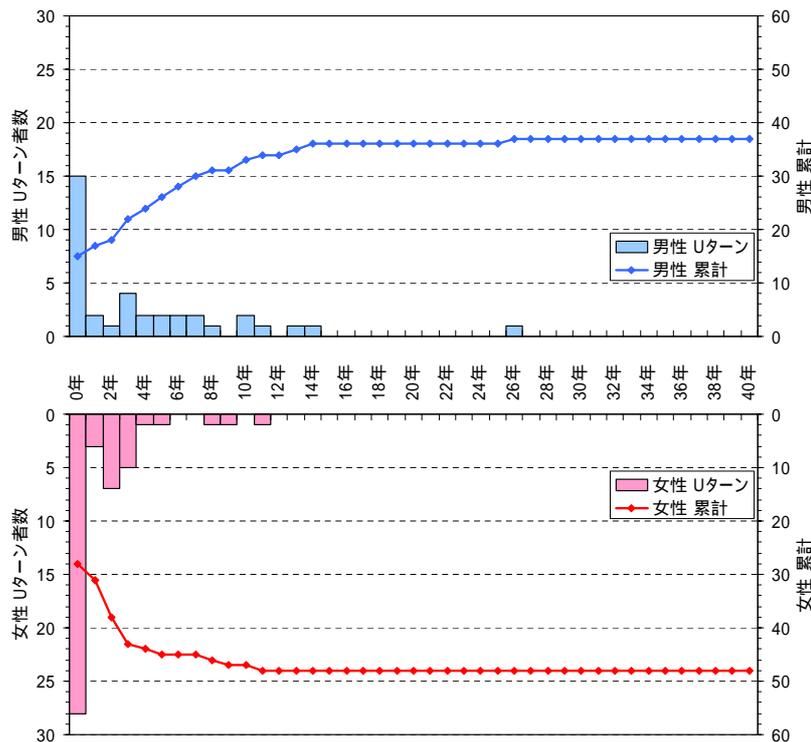
## 就職経年とUターン発生時期



全体の50.6%が新規就職時。就職後は2～3年後に山。10年以内には概ね完了。  
 第1世代のみ新規就職時のUターンが極めて少ない 都市と地方の就業格差大の時期

# Uターンの発生時期（男女間比較）

## 就職経年とUターン発生時期（男女別）



新規就職時  
 男性・・・40.5%  
 女性・・・58.3%

就職後2～3年の山  
 男性よりも女性の方が大

女性  
 早い段階でのUターン  
 実行者が男性よりも多い

男性  
 広い時期にUターンが分散  
 島外で年を重ねても、  
 その後にUターンする者も  
 一定数いる  
 家業・家産の継承  
 親の面倒などが背景？

# Uターンの誘引要因と阻害要因

## Uターンの「きっかけ」

	第1世代	第2世代	第3世代	男性	女性	全体
新規就職	17.6					
転勤		18.6				
転職			20.8	22.2	20.8	21.4
実親の面倒			20.8			
家業・家産の継承	23.5	18.6	16.7			19.0
結婚	23.5				16.7	
淡路島での子供の頃からの人間関係	17.6		16.7			
温暖・豊かな自然環境	23.5	23.3	25.0	19.4		23.8
のんびりとした土地柄、都会のせわしさへの嫌気	23.5	20.9		22.2		25.0
住宅事情	17.6					
淡路島への愛着、住み慣れた土地での生活				25.0		

第1世代・・・いったん島外で就職した者の「親の面倒」「転職」を機としたUターン  
 第2第3世代・・・「新規就職」、最近では「地域への愛着」も上昇  
 男性・・・家族・家産的要因、職業的要因      女性・・・地域風土的要因

## Uターンの「差し障り」

	第1世代	第2世代	第3世代	男性	女性	全体
自分にあった職種の不足						
収入の低下						15.5
結婚	23.5					
これまで築いた会社や地域での人間関係を維持しなかった						
華やかで便利な都会生活						
当時の居住地への愛着	23.5					

全てにとって「職種の不足」「華やか便利な都会生活」がUターンの大きなネック  
 島外でのライフステージ進行・家族形成に伴う、Uターン障害の複雑・巨大化

# Uターン実行者の生活満足

## Uターン実行者の満足

	第1世代	第2世代	第3世代	男性	女性	全体
やりたい仕事ができる	30.8	21.6		21.9		
収入の増加	23.1					
親の面倒がみられる						
家業・家産を継承できる	23.1					
子供の教育環境が豊か、のびやか	53.8	27.0		40.6	20.5	29.6
持家を取得できる		29.7	28.6	25.0	28.2	26.8
子供の頃からの友人や親戚が多い	46.2	32.4		43.8	35.9	39.4
地域社会での人々の暖かいつながり		35.1	38.1		28.2	40.8
温暖・豊かな自然環境			33.3	46.9		
のんびりとした土地柄	38.5					
住宅事情	30.8				25.6	
出身地域の発展に貢献できる	23.1			21.9		
大鳴門海峡大橋・明石海峡大橋の開通		29.7			25.6	22.5

上位は「親の面倒がみられる」「温暖・豊かな自然環境」「のんびりとした土地柄」  
 「やりたい仕事ができる」「子供の教育環境が豊か」が近年減少傾向

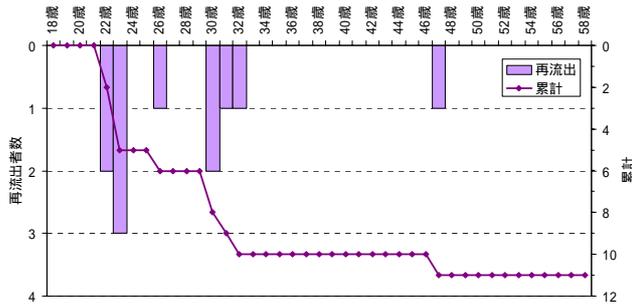
## Uターン実行者の不満

	第1世代	第2世代	第3世代	男性	女性	全体
やりたい仕事ができない	15.4					18.6
収入の低下				15.6		
農地や山林等を守っていくのが大変		16.7		21.9		
子供の教育環境が未整備		16.7				
地域社会へ溶け込めない、近所づきあいが大変		16.7			18.4	
都市に比べて生活に面白さや楽しさがない						
日常生活が都市に比べて不便						
物価が高い又は不安定である	23.1			21.9		15.7
淡路島での老後のケア体制に不安	30.8				15.8	

上位は「都市に比べて生活に面白さや楽しさがない、不便」  
 若い世代ほど「やりたい仕事ができない」（男性では4人に1人）

# Uターン実行後の再流出

## 再流出の発生時期



3世代全体で、  
Uターン実行後の再流出率は15.7%  
島外再流出は様々な時期に分散

## 再流出の「きっかけ」

	男性	女性	全体
淡路島での職の不足、職のミスマッチ	●	●	●
転勤	●	●	●
配偶者の仕事の都合	●	●	●
結婚	●	●	●
地域社会・近所づきあいに溶け込めなかった	●	●	●
淡路島の気候など風土が自分に合わなかった	●	●	●
淡路島の不便さ、華やかで便利な都会生活	●	●	●
新しい地域への好奇心	●	●	●

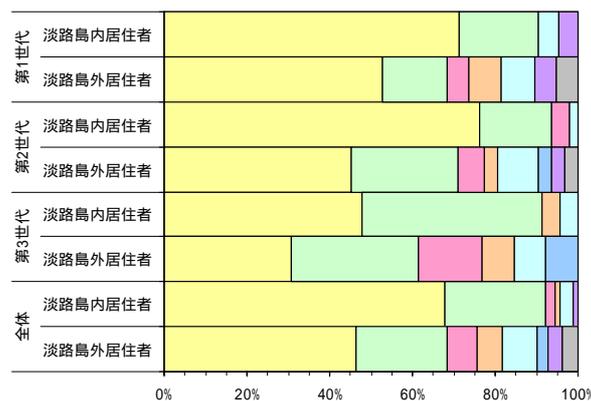
男性「転勤」  
「職のミスマッチ」  
女性「結婚」「配偶者の仕事の都合」  
「都会に比べた不便さ」が後押し

## 再流出の「差し障り」

	男性	女性	全体
淡路島での職を続けたかった	●	●	●
配偶者の仕事の都合	●	●	●
島内に住む親の面倒をみられなくなる	●	●	●
島内で家業・家産を継承できなくなる	●	●	●
淡路島の豊かな自然環境	●	●	●

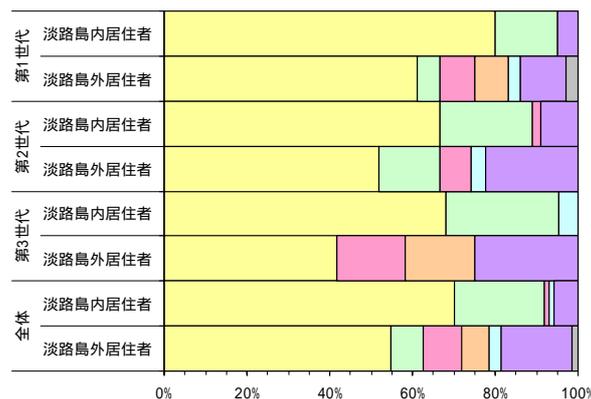
「親の面倒がみられなくなる」  
男性「家業・家産が継承できない」  
女性「職 続けたかった」

# 地方圏出身者の将来意向 (15年後の居住地)



## 希望

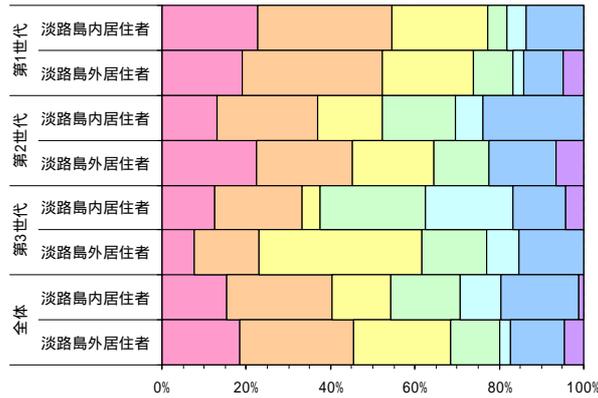
現在島外居住者の  
22.0%が  
「淡路島」を希望  
第1世代 15.8%  
第2世代 25.8%  
第3世代 30.8%



## 現実的見通し

現在島外居住者で  
「淡路島」と回答  
は8.0%のみ  
第1世代 5.6%  
第2世代 14.8%  
第3世代 0%

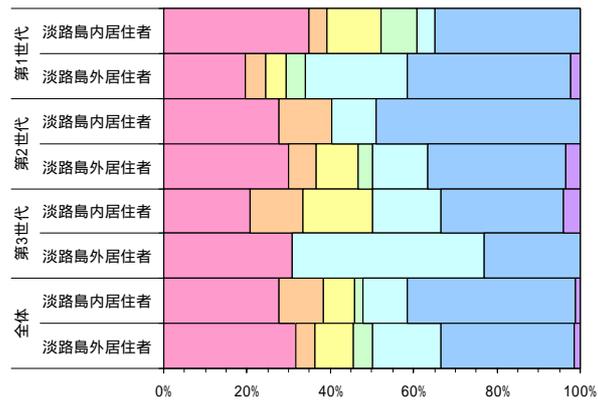
# 地方圏出身者の将来意向 (親子の居住関係)



## 親の健康不安時

若い世代ほど同居・近居を希望

第1世代 65.6%  
第2世代 50.7%  
第3世代 73.0%

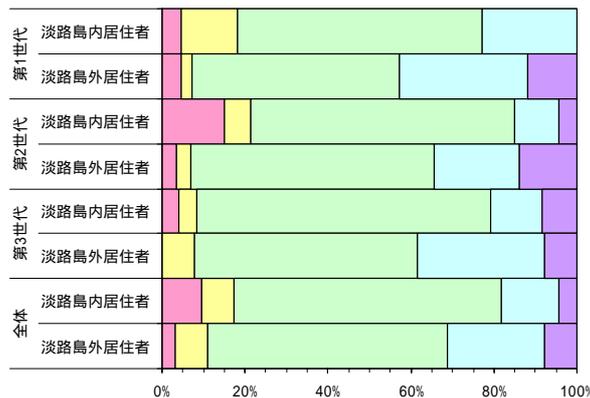


## 自身の健康不安時

若い世代ほど同居・近居を希望

第1世代 35.9%  
第2世代 27.3%  
第3世代 45.9%

# 地方圏出身者の意識 (きょうだいとUターン)



「きょうだいのうち、誰もUターンをしなくてもよい」減少傾向 (第1世代 28.1% 第2世代 15.1% 第3世代 18.9%)

「長男がUターンをすればよい」「誰もUターンをしなくてもよい」から  
「少なくとも誰かがUターンしなければならない」  
「なるべく全ての者がUターンすることが好ましい」へ変化

極めて家族的な要素(「親子関係」「きょうだいとUターン」)によるUターン志向の強まりが、若い世代のUターン率を上昇させている。

# 人口還流政策への示唆 ~ 地方圏の将来像

## 五色町

充実した福祉サービスによる  
島外高齢層の移住“介護移住”  
町全体の人口動態を左右する  
ほどのインパクトを持つまでに

## 東浦町

宅地造成  
神戸圏に対するベッドタウン化  
との相乗効果

## リタイアメントビレッジ構想

津名町に2004年3月から  
1,300人が暮らす「高齢者のまち」  
豊かな自然環境・温暖な気候の中で、  
同時に、大都市の利便性  
元々の風土を活かし  
島外高齢層の大量流入  
若者雇用創出  
大学の創設  
高齢層の能力の活用



淡路地域と阪神地域における生活圏の相互浸透

# 人口還流現象の将来像

## これまでの指摘との比較

これまでの多くの指摘  
「若年層の出身地への帰還が減少」  
Uターン率は一貫して上昇。  
きょうだい数が減少する中において、  
世代継承率をも上昇させるほどの規模

## 人口還流の将来

強い「家族規範」が揺るがない限り、  
最低レベルでの雇用が確保されている  
現在、今後の若い世代たちにも一定  
規模のUターン者が見込まれる。  
人口還流現象は、  
強く懸念される現象ではなくなる。  
新たな時代を迎えている。

## Uターン率上昇の背景

都市と地方との就業格差縮小、  
最低レベルでの受け皿の確保。  
きょうだいの減少、  
長男の割合増加、  
「跡を継がなければならない者」増加  
「家族規範」の強まり

## 今後の人口還流研究・政策

(1) 再流出現象  
強い家族規範のもとにUターンを実行  
した者の、その後の不満・再流出。  
(2) 高齢期の移動  
団塊世代が高齢期に差し掛かる。  
モビリティの高まる高齢期の移動。